

平成30年版 建築設備設計基準の正誤表について
設備設計基準 第1版正誤表

頁	編	章	節・項	項名称	訂正箇所	誤	正
47	2	1	5-1	コンセント	(5)	専用とする回路は、原則として第2章 第6節 6-4-2「分岐回路」による。	専用とする回路は、原則として第6節 6-4-2「分岐回路」による。
170	2	8	4-4-9	配線用遮断器	表4-21 配線用遮断器の定格	定格遮断容量[kA] …、14、18、22、25、30、35、42、50、65	定格遮断容量[kA] …、14、15、18、22、25、30、35、36、42、45、50、65
191	2	10		技術資料	2-1-2(2)の欄	発電機容量の算出方法には、一般式と簡易式があり、設計資料では簡便に出力計算する簡易式としていたため、計算結果の95%以上の標準発電機出力のものがある場合は、それをを 選択することになっている。ただし、順次投入方式の計算で一般式を採用する場合を除く。	発電機容量の算出方法には、一般式と簡易式があり、設計資料では簡便に出力計算する簡易式としていたが、いずれの計算式においても計算結果の95%以上の標準発電機出力のものがある場合は、それを選択することになっている。
200	2	8	2-1-4	発電機出力係数(RG)の算出	表2-8 始動時定数(始動時瞬時)の表中2行目	始動中	始動瞬時
201	2	10	2-1-4	発電機出力係数(RG)の算出	表2-8 電灯差込の欄	蛍光灯	LED(蛍光灯)
203	2	10	2-1-4	発電機出力係数(RG)の算出	表2-9 電灯差込の欄	蛍光灯	LED(蛍光灯)
206	2	10	2-1-4	発電機出力係数(RG)の算出	(5)② 11行目	$RA[kW] \geq RB[kW]$	$RA[kW] \geq RB[kW]$
208	2	10	2-1-4	原動機出力係数(RE)の算出	(3)① 4行目	$RE_{2i} \equiv (D/E) =$	$RE_{2i} (D/E) =$
297	3	6	2-2	インターホン	表2-1 インターホンの種類の表中2段目	身体障害者用インターホン	障害者用インターホン
305	3	7	3	配線	表3-7 増幅器の種類及び電気的特性の形式7行目	SH_UF-1	SH_UF-1
314	3	7	3	配線	図3-5 受信システム構成(分岐分配方式)3.224MHz帯の場合の例の下部⑨増幅器	SH_UF-1	SH_UF-1
325	3	10	3	配線	図3-1 駐車場管制設備の構成例のループコイル(5箇所)	LC	LC
372	4	1	2-3-5	暖房負荷計算 外気負荷	下から9行目	ρ : 空気の密度[kJ/m ³]	ρ : 空気の密度[kg/m ³]
381	4	1	3-3	選定図表	表3-5 チリングユニット(水冷式)の諸元 左欄の圧縮機横の空白欄		電動機出力[kVA]
390	4	1	4-4	設置要領	(丸方冷却塔の外気流入スペース)備考	(2)壁又は塔間隔が5h以内の場合は、..	(2)壁又は塔間隔が2h以内の場合は、..
406	4	1	7-3	計算式	下から13行目	C: 燃焼消費量	C: 燃料消費量
429	4	1	9-1-2	ダブルコイル空気調和機機の算定及び空気線図の作図法	(h)コイル冷却負荷の算定	ii)潜熱(外気負荷用)コイル冷却負荷(q_{c0})は、比エンタルピー差($h_{2c} - h_{4c}$)に基づいて計算する。	ii)潜熱(外気負荷用)コイル冷却負荷(q_{c0})は、比エンタルピー差($h_{2c} - h_{4c}$)に基づいて計算する。
451	4	1	11-1	一般事項	下から4行目	及び外皮暖房負荷 q_{th}	及び外皮暖房負荷 q_{th}
594	4	5	3	ダクト系の抵抗計算	(3)直管ダクトの圧力損失 ΔP_t [Pa]の3行目の式	$Q = \pi/4 \cdot d^2 \cdot \nu \cdot 3,600$	$Q = \pi/4 \cdot d^2 \cdot \nu \cdot 3,600$
619	5	2	1	基本事項	図1-2 給水設備の計算フロー(雨水利用可能な上水・雑用水2系統の場合)		別紙-1参照

643	5	2	7-1	給水管	図7-6配管摩擦抵抗線図 ステンレス鋼管	図の差替:別図-1参照	
650	5	3	3-1	貯湯タンクの算定	下から4行目	ア $Q_{hm} = q_{E2} \cdot 45 - t_c / t_h - t_c + (q_1 + q_2) \cdot N \cdot (1 - T) \cdot 60 - t_c / t_h - t_c$	ア $Q_{hm} = q_{E2} / T \cdot 45 - t_c / t_h - t_c + (q_1 + q_2) \cdot N \cdot (1 - T) \cdot 60 - t_c / t_h - t_c$
678	5	4	5-2	管径の決定	表5-2排水横主管及び屋外排水 管の許容最大排水単位の注	※4 特殊継手システム・・	※4 特殊継手排水システム・・
678	5	4	5-2	管径の決定	表5-3排水横枝管及び排水立て 管の許容最大排水単位の備考	(1) 伸長通気方式 ^{※3} 、特殊継手システ ムには、・・	(1) 伸長通気方式 ^{※2} 、特殊継手排水シ ステム ^{※3} には、・・
827	7	2	2-2	ユニット形空調和機 系システム	図2-4 ユニット形空調和機系 定風量システム図の備考	(3).....一式を含む (4).....一式を含む	(3).....一式を含む _△ (4).....一式を含む _△
828	7	2	2-2	ユニット形空調和機 系システム	図2-5 ユニット形空調和機系 変風量システム図の備考	(3).....一式を含む (4).....一式を含む	(3).....一式を含む _△ (4).....一式を含む _△
837	7	2	2-7	空気熱源ヒートポンプ パッケージ形空調 和機システム	下から5行目	オ)・・、 <u>パン</u> 形加湿器を2位置制御す る。	オ)・・、加湿器を2位置制御する。
902	7	4	1-3	関係法令等	表1-4 コージェネレーション 装置と関係法令の規制対象 欄3段目	(LPGは10kg)が [△] 1m ³)	(LPGは10kg が [△] 1m ³)
912	7	6	1-3	計 算	図1-7 シーリングディフュー ザーC ₂ 型の発生騒音	(a)図、(b)図及び [△] 図のX軸で、 <u>風量 の100の位置がずれている。</u>	(a)図、(b)図及び [△] 図のX軸で、 <u>風量 の100の位置を右に2桁移動する。</u>
913	7	6	1-3	計 算	図1-8 シーリングディフュー ザーE ₂ 型の発生騒音	(a)図、(b)図及び [△] 図のX軸で、風量 の100の位置がずれている。	(a)図、(b)図及び [△] 図のX軸で、風量 の100の位置を右に2桁移動する。
914	7	6	1-3	計 算	図1-9 吹出口 VHSの発生騒 音	(c)図の寸法 300× <u>150</u>	(c)図の寸法 300× <u>200</u>
937	7	8	-	設計資料	上から8行目	(1)・・また、温水検知器(漏水検知 帯)・・	(1)・・また、温水検知器(漏水検知 帯)・・

平成30年版 建築設備設計基準の正誤表について
設備設計基準 第2版正誤表

頁	編	章	節・項	訂正箇所	誤	正
47	2	1	5-1	コンセント	(5)	専用とする回路は、原則として第2章 第6節 6-4-2「分岐回路」による。
170	2	8	4-4-9	配線用遮断器	表4-21 配線用遮断器の定格	定格遮断容量[kA] …、14、18、22、25、30、35、42、50、65
200	2	8	2-1-4	発電機出力係数(RG)の算出	表2-8 始動時定数(始動時瞬時)の表中2行目	始動虫
297	3	6	2-2	インターホン	表2-1 インターホンの種類の表中2段目	身体障害者用インターホン
305	3	7	3	配線	表3-7 増幅器の種類及び電気的特性の形式7行目	SH_UF-1
314	3	7	3	配線	図3-5 受信システム構成(分岐分配方式)3.224MHz帯の場合の例の下部⑨増幅器	SH_UF-1
325	3	10	3	配線	図3-1 駐車場管制設備の構成例のループコイル(5箇所)	LC
372	4	1	2-3-5	暖房負荷計算外気負荷	下から9行目	ρ : 空気の密度[kJ/m ³]
381	4	1	3-3	選定図表	表3-5 チリングユニット(水冷式)の諸元 左欄の圧縮機構	電動機出力[kVA]
390	4	1	4-4	設置要領	(丸方冷却塔の外気流入スペース)備考	(2)壁又は塔間隔が5h以内の場合は、…
429	4	1	9-1-2	ダブルコイル空気調和機機の算定及び空気線図の作図法	(h)コイル冷却負荷の算定	ii)潜熱(外気負荷用)コイル冷却負荷(q ₀)は、比エンタルピー差(h _{2c} -h ₄)に基づいて計算する。
594	4	5	3	ダクト系の抵抗計算	(3)直管ダクトの圧力損失 ΔP _f [Pa]の3行目の式	$Q = \pi / 4 \cdot d^2 \cdot \nu \cdot 3.600$
643	5	2	7-1	給水管	図7-6配管摩擦抵抗線図 ステンレス鋼管	図の差替: 別図-1参照
650	5	3	3-1	貯湯タンクの算定	下から4行目	$Q_{nm} = q_m \cdot 45 - t_c / t_h - t_c + (q_1 + q_2) \cdot N \cdot (1 - T) \cdot 60 - t_c / t_h - t_c$
837	7	2	2-7	空気熱源ヒートポンプパッケージ形空気調和機系システム	下から5行目	オ)…、 <u>パン</u> 形加湿器を2位置制御する。
902	7	4	1-3	関係法令等	表1-4 コージェネレーション装置と関係法令の規制対象欄3段目	(LPGは10kgが1m ³)
912	7	6	1-3	計 算	図1-7 シーリングディフューザ-C ₂ 型の発生騒音	(a)図、(b)図及び(c)図のX軸で、風量の100の位置がずれている。
913	7	6	1-3	計 算	図1-8 シーリングディフューザ-E ₂ 型の発生騒音	(a)図、(b)図及び(c)図のX軸で、風量の100の位置がずれている。
914	7	6	1-3	計 算	図1-9 吹出口 VHSの発生騒音	(c)図の寸法 300 × 150

平成30年版 建築設備設計基準の正誤表について
設備設計基準 第3版正誤表

頁	編	章	節・項		訂正箇所	誤	正
47	2	1	5-1	コンセント	(5)	専用とする回路は、原則として第2章 第6節 6-4-2「分岐回路」による。	専用とする回路は、原則として第6節 6-4-2「分岐回路」による。
372	4	1	2-3-5	暖房負荷計算 外気負荷	下から9行目	ρ : 空気の密度[kJ/m ³]	ρ : 空気の密度[kg/m ³]
381	4	1	3-3	選定図表	表3-5 チリングユニット(水冷式)の諸元 左欄の圧縮機横	電動機出力[kVA]	電動機[kVA]
390	4	1	4-4	設置要領	(丸方冷却塔の外気流入スペース)備考	(2)壁又は塔間隔が5h以内の場合 は、..	(2)壁又は塔間隔が2h以内の場合 は、..
429	4	1	9-1-2	ダブルコイル空調 和機機の算定及び 空気線図の作図法	(h)コイル冷却負荷の算定	ii)潜熱(外気負荷用)コイル冷却負荷 (q_{c0})は、比エンタルピー差($h_{2c}-h_{4c}$)に基づいて計算する。	ii)潜熱(外気負荷用)コイル冷却負荷 (q_{c0})は、比エンタルピー差($h_{2c}-h_{4c}$)に基づいて計算する。
594	4	5	3	ダクト系の抵抗計算	(3)直管ダクトの圧力損失 ΔP_c [Pa]の3行目の式	$Q = \pi / 4 \cdot d^2 \cdot \nu \cdot 3,600$	$Q = \pi / 4 \cdot d^2 \cdot \nu \cdot 3,600$
650	5	3	3-1	貯湯タンクの算定	下から4行目	ア $Q_{hm} = q_{B2} \cdot 45 - t_c / t_h - t_c + (q_1 + q_2) \cdot N \cdot (1 - T) \cdot 60 - t_c / t_h - t_c$	ア $Q_{hm} = q_{B2} / T \cdot 45 - t_c / t_h - t_c + (q_1 + q_2) \cdot N \cdot (1 - T) \cdot 60 - t_c / t_h - t_c$
912	7	6	1-3	計 算	図1-7 シーリングディ フューザ-C ₂ 型の発生騒音	(a)図、(b)図及び(c)図のX軸で、風量の 100の位置がずれている。	(a)図、(b)図及び(c)図のX軸で、風量の 100の位置を右に2桁移動する。
913	7	6	1-3	計 算	図1-8 シーリングディ フューザ-E ₂ 型の発生騒音	(a)図、(b)図及び(c)図のX軸で、風量の 100の位置がずれている。	(a)図、(b)図及び(c)図のX軸で、風量の 100の位置を右に2桁移動する。
914	7	6	1-3	計 算	図1-9 吹出口 VHSの発生 騒音	(c)図の寸法 300×150	(c)図の寸法 300×200

第5編 給排水衛生設備 第2章 給水設備 P619

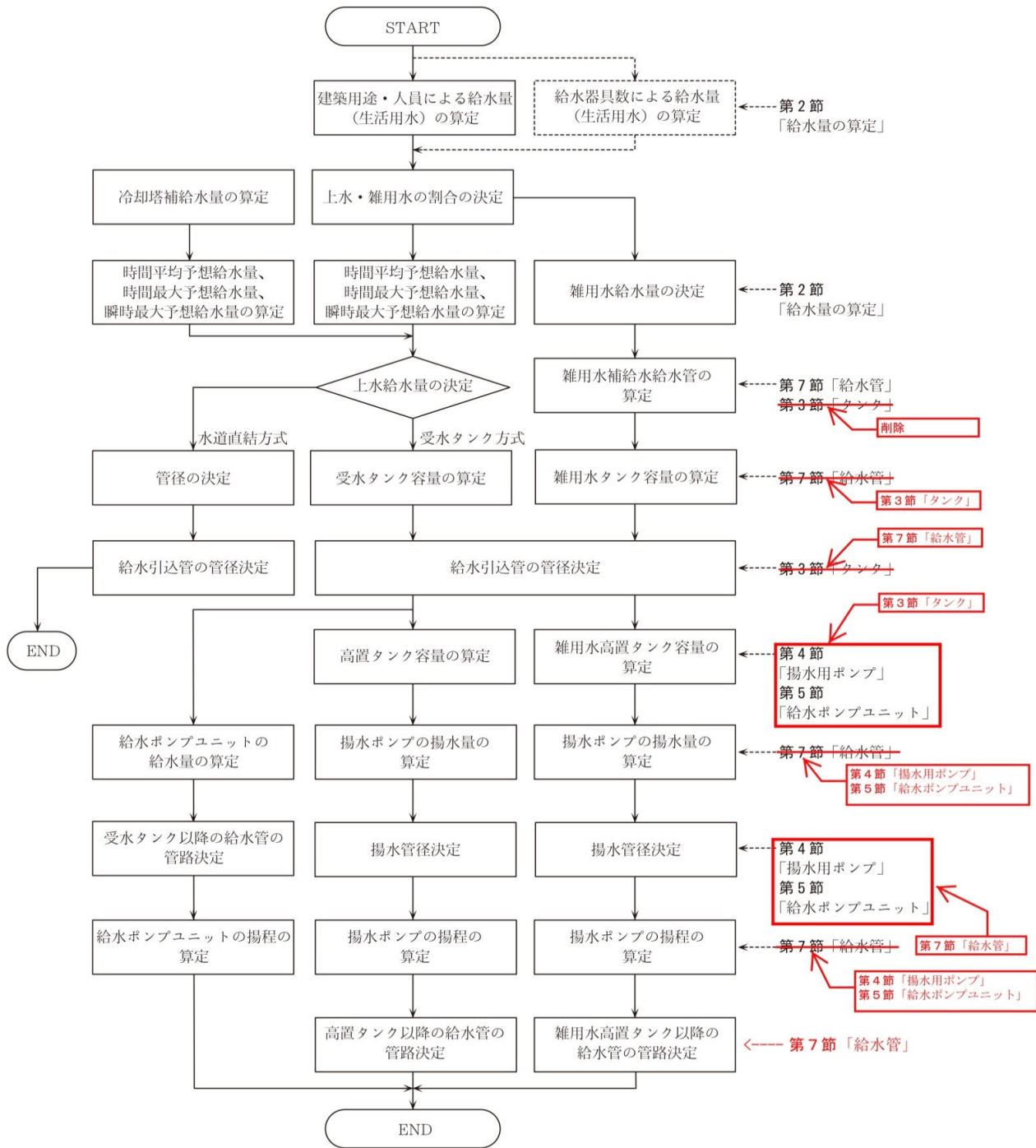
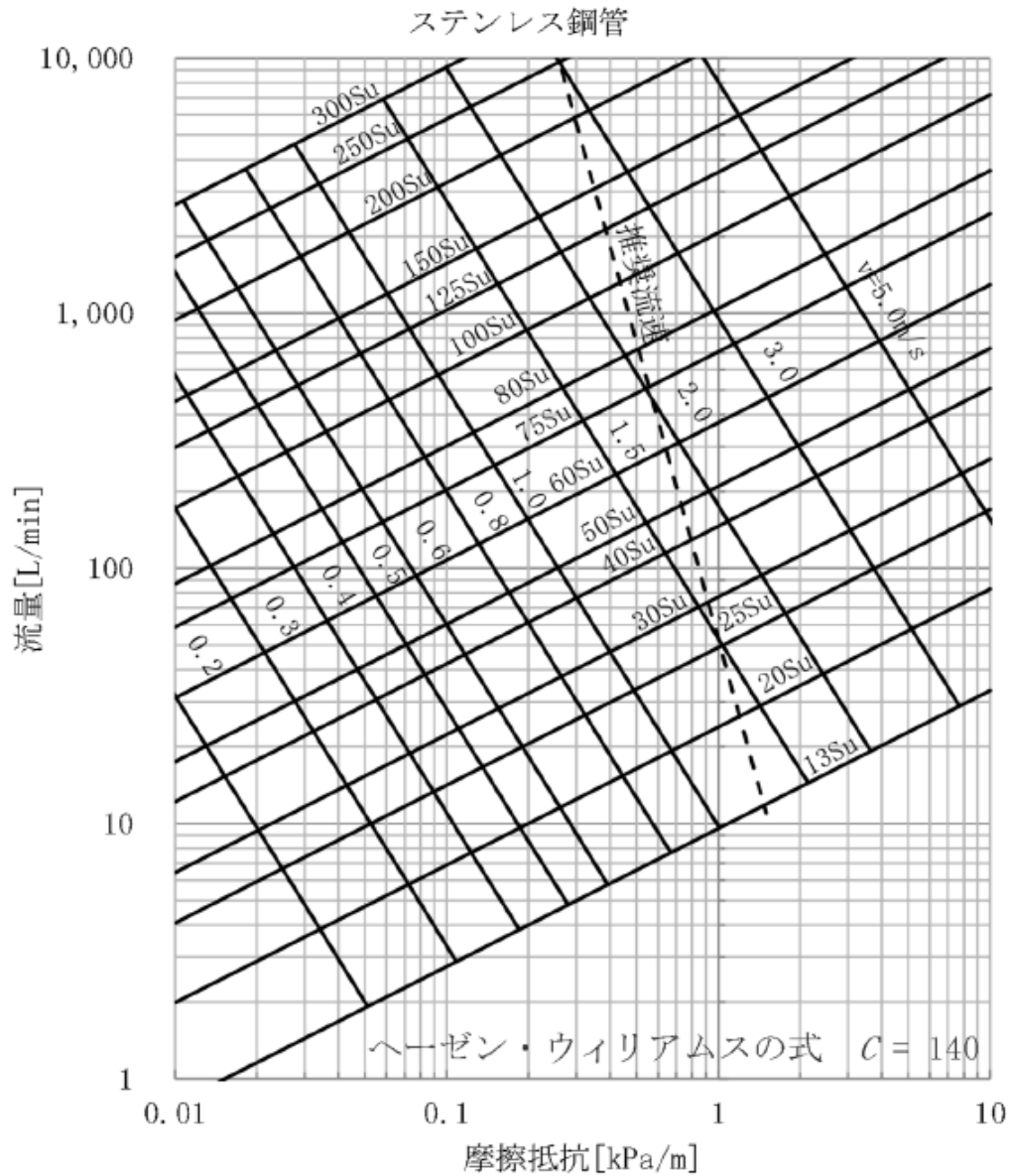


図 1-2 給水設備の計算フロー（雨水利用可能な上水・雑用水 2 系統の場合）



備考 この線図は、消火設備の配管には適用しない。

図 7-6 配管摩擦抵抗線図